



## 「まもる」と「きたえる」と

浅井善一

子どもが水を慕い、水遊びや水泳を楽しむ季節になった。このことで親や教師がまず第一に頭をいためるのは「水の事故」であろう。

水に限らず、このごろの自然環境・社会環境はあまりにも危険が多すぎる。矢作川や菅生川の清流で心ゆくまで泳ぎまわり、鎮守の森でかぶと虫やせみをつかんだりした自分の子どものころを思うと、今の子どもは全くかわいそうである。

しかし、子どもたちを取りまききびしい現実の環境を前にしては、単なる追憶や同情ではすまされない。子どもたちのかけがえのないからだと心をまもってやることは、私たち大人に課せられた当然の務である。

それでは、私たち親や教師は、子どもたちをまもってやることだけで務は果たせたであろうか。私はいいい知れぬさびしさ、物足りなさを感じずにはおれない。東井

義雄先生は過日の教育講演会で、「のら猫の脳と、飼猫の脳とを解剖して比べてみると、のら猫のほうがはるかによく発達している」と、ひとり立ちできる子どもの育成を強調された。全く同感である。

どんな環境におかれようと、自分の力で、自分に必要なものを選択し、利用し、不必要・有害なものを排除することのできる、正しい判断力と自制力を身につけた心身ともにたくましい人間にきたえあげることが、親や教師に課せられたより重要な務ではなかるうか。

まもることときたえることは、別なことでも、相反することでもない。あなたかくまもってやることの具体的な場をとおして、きびしくきたえることを志向することが肝要だと思う。

(岡崎市小中学校長会会長)



(男川小学校のけやき)

## 病友

年末から年始にかけて、ノンジャネの  
日が続く。これは少々過ぎたかなと反省  
の気の動いた頃は、既におそし。反省と  
いうのは、いつもあとあと、とついで回  
るのがいじらしい。一月十七日入院。

この日から、ノンジャネの生活から、  
クッチャネの生活に変わる。越後の大地  
震の時、見舞いをうけた人へのお礼の言  
葉の中で、良寛はこういつている。

「災難にあう時は、あうがよろしく候。

病む時は、病むがよろしく候。」と。

さて戦友とか、学友とかいう言葉は、  
耳なれているが、病友とはどういう言葉  
であろうか。辞書を引いてみる。

「病友とは、病氣をしている友人」とあ

## 兵藤三平

る。それは全く読んで字の如くであるが  
ここでいう病友とは、少々ニュアンスが  
違う。健康な人が、病氣をしている友達  
を病友とよんでいるのではない。

病める者同志が、相手の中に自分を、  
自分の中に相手をみつめている仲間意識  
の上に、友と呼ぶ相応の自覚である。そ  
れは、戦友とか、学友とかに近いニュア  
ンスである。

今までこんな言葉は、余り聞いたこと  
も、使ったこともなかったのであるが、  
今度の入院を境に、この言葉が実感とし  
て、口をつくのである。

いうまでもなく、人間はお互いに、体  
にも、心にも何程かの病を持っているの  
である。その病氣持ちの病友に、慰めら  
れ、励まされ、力づけられて生きている  
のが実相である。

長い一夜を、テンテンハンソクの中  
に過す。夜明けとともに、ヤレヤレとホ  
ッとした音が、洗面所に行く。最初  
の挨拶は、「お早う」ではない。最初の一  
言は、先ず「ドウ」である。それが極め  
て自然である。相手の病氣を気遣いつつ  
自己の病氣をたしかめているのである。  
そしてそれは、一夜を共に生きた喜

びでもある。

同喜、同悲という言葉がある。他己と  
自己の写照の姿である。病を媒体として  
生への努力を誓い合う姿である。

弱い者同志が、その弱点を拠として、  
いたわり合って生きて行く姿こそ、人間  
生活の基調でなくてはならない。それは  
人間悲泣ともいふべき厳肅なる事実であ  
る。

しかし我々が、日常性に追いまくられ  
ている日々を省みると、この基調が、段  
々薄らいていくようである。とかく鋭角  
的であるべき現実が、鈍角的な夢遊の中  
に、妥協を見つけてるのである。そこか、  
友人に対しても、隣人に対しても真執手な  
態度が忘れられてくるのではないであろ  
うか。

毎日毎日が「おい、どうだ」とお互い  
に生きるこの意義をたしかめ合いなが  
ら生活するとしたら、我々の生活に、一  
抹の涼風が吹き込まれることであろう。  
だが我々の日々を反省してみる時、た  
まらない寂しさに胸を締めつけられる思  
いに、さいなまれるのは、私一人ではな  
いであろう。

何も知らないのに、知ったかぶり、何  
も持っていないのに、持ったかぶり。自  
惚の中に逃避して、カムフラージュ。  
ベスタロッシーに親心、子心という言  
葉があり、父の子を、子の中の父を  
同脈搏といっている。皆病友だよ。皆病  
友だよ。そこを生活の、教育の起点とし  
よう。  
(「千枚綴」著者)

いまはむかし



## 山の家・海の家

●大自然に抱かれて——天然プール  
大平川の水をせきとめて作られた天然  
プールは、戦後も大にぎわい。毎年、夏  
を待ちきれず、カップ天国が出現。

テントが張られ、派出所のおまわりさ  
ん、PTAの方まで動員。近くの小中学  
校、子ども会の水泳訓練の場として、大  
いに利用されたものである。

●名選手生まれる——水泳教室

美合の本間淳治氏らのお力で、ここに  
「水練教室」開かれる。市水泳協会の指  
導もあり、鈴木弘選手(十五回オリンピック)、銀メダル)のような名選手が生ま  
れたことは特筆に値する。

●米を持つてはるばると——臨海学校  
食糧難時代のことゆえ、米持参で出か  
けたものである。汽車、電車で乗りつき  
大塚、三谷、蒲郡、西浦、碧南などへ出  
かけた。学校やお寺を借り、水泳訓練を  
したり、スイカ割りやすもう大会など師  
弟ともに興じたものである。

教育随想

# 河川美化総決起大会

六月二日、岡崎市の中学校生徒会連絡協議会の提唱により、殿橋を中心とした、菅生河原に四千人の中学生が結集し、「河川美化総決起大会」が開催された。

これまで、市内の各中学校の生徒会では、学区の実情に合わせ、町の美化や、自然を守る運動を展開してきた。

愛鳥運動を続けてきたT校は「愛鳥モデル校」として文部大臣や、県知事から表彰を受け、全市民に感動を与えている。げんじ螢を飼育し、絶滅にひんした螢を救ってくれたK校の働きが文部大臣より「げんじ螢天然記念物指定」という成果をあげてくれた。市街地のいくつかの学校では、早朝の街頭美化、年末の街頭清掃、バス停のすいが入れのとりのりつけ等、町の美化に励んできた。

「私たちの町を、生徒会の手で少しでも美しくしよう」という呼び声のもとに、この五月、全市民生徒会連絡協議会をもつた。自主的に、総意を結集し、市民の先頭に立って、菅生川に清流をとりとぞうというのである。

この日、菅生河原の総決起大会は、フアンファアールの合図で午後二時開始。正面ステージの背後に、「河川美化総決起大会」と染め抜かれた横断幕が張られ、北岸にアドバルーンが緑の風に揺れる。

市長さんから、この生徒会の自主活動へ絶大の讃辞をいただく。宣言が力強く続

みあげられ、生徒代表が、「市民の先頭に立って、町の美化にのりだします」とあいさつをした。環境交通課からいただいた、三千匹の錦鯉ミカチャンを市長さん初め来賓の手で一斉に放流。

式終了後、明大寺橋と名鉄鉄橋の間の両岸の草を刈り、川の汚物を拾う。一時間はかりでみちがえるほど美しい川岸になった。

六月、新緑の菅生河畔に展開された四千人の中学生の河川美化奉仕活動は、全市民にさわやかな感動を与えたことである。

## 宣 言

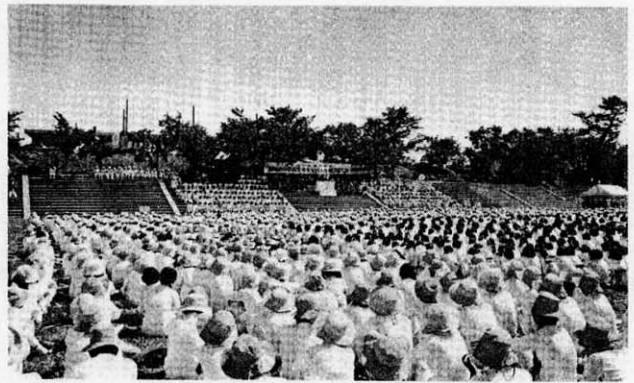
緑と太陽の町づくりをめざして、わたしたち各中学校生徒会は、川岸の草とりや野鳥の巣箱づくり、げんじ螢の幼虫飼育、早朝の街頭清掃など、それぞれが奉仕活動を行ってきました。

きょう、全市十四の中学校生徒会は、ここ菅生河原にその総意と努力を結集して、岡崎市中学校生徒会河川美化総決起大会を開き、二十二万市民の先頭に立って「住みよい岡崎の建設」に挺身せんとするものであります。

右宣言いたします。

昭和四十八年六月二日

岡崎市中学校生徒会総決起大会



子ども会なども、観光バスで盛んに出かけるようになった。広輪、井田の子ども会などは、早くから独自で貝拾い、海水浴など実施していた。

●緑陰に歌声ひびく 林間学校

昭和25年、本市として最初のプールが葵中(50メートル・8コース公認)に完成。その後、矢作北小(25年)甲山中(26年)南中(27年)岡崎小、根石小、井田小(28年)に新設された。

一方、30年前後より、公害による海水のよこれ、地域開発による海水浴場の縮小、危険防止などの点から、林間学校が多く開設されるようになった。

以前から鳳来寺山の宿坊はよく利用されていた。中学校では茶白山、相梁山荘(昭33年新設)などで宿泊訓練が実施された。いずれも、カウンセラーの適切なアドバイスのもと、幾多の若人の夢をはぐくんできています。

このほか、校内で宿泊するサマーミーティング(葵中)ジャンボリー(城北中)などのように、新しいアイデアで試みられ、今日まで続いているものもある。

●恵まれた施設の中で 山の家のうるわしき緑に囲まれた若人の城、働く者の「山の家」が、42年に開設され、県の野外教育センターも額田郡に昨年完成した。ともに恵まれた環境、近代的な施設の中で、岡崎の子どもたちは、本年も野外活動のよさを満喫するであろう。

(本間淳治・栗田昭夫・川島良夫・糟谷正孝各先生のお話から)



新制中学校の歴史も四半世紀を過ぎたこのごろ、教育の目的が改めて問い直され、教育の革新が各界においてしきりに論議されている。

この時機に、中学校五校が改築をみた。そのうち美川、南竜海、六ツ美の四校は市当局の英断による岡崎育英会の特例事業によって進められた。

この画期的な施策は、岡崎の教育の未来にはかりしれない夢を抱かせる。

設計や施工の時期に、市当局とその学校の間では、教育内容や方法の進展に対処できるような意見が交換されてきた。完工をみた鉄筋コンクリート四階建の偉容はいうに及ばず、電気配線工事、給排水衛生工事等、未来の学園を指向した雄大な構想にもづくものである。

七月中には、すべての学校の完工式が終わる予定である。いま、五中学校とも、新たな学園づくりが、物心両面におたつて企画、実施されている。そこには、創造への苦楽があり、未来への力強いまなざしがある。

期日	六月二十三日
場所	竜海中学校
出席者	内田 松夫教頭(南 中) 太田 正士 (葵 中) 河口 進 (六ツ美中) 小林 績 (美川中) 富田丈三郎 (竜海中)
司会	編集部

司 完工式が終わったところも、これからという学校もあるが、こんどの改築をめぐるいろいろな話し合っていた。また、改築全般について。

A こんどの改築では、市当局が学校側の意見をよく聞いていただき、これらの学校建築に大きな夢が開けた。

B その点で、教育の専門職としてのわれわれが、これからの教育の進展を先取りできるように、常に勉強をしていなければならぬ。

A 学校、それぞれの立地条件もあるが特別教室の構造とか、将来必要が生ずるであろう教室など、これからの学校建築の基本的なパターン、理想案というものを、全市の立場で研究する必要があると感じた。

C いよいよ新校舎へ入るといふ時、改築された学校の教頭、教務主任、校務主任が会合し、新校舎での生活をどうするか、登校から下校まで新校舎をどう利用するかということ細かいところ

ろまで話し合った。

司 生徒の変わり方からみた新校舎は。

B 生徒の姿勢がよくなった。教室が明るいとということだけからでなく、キリッとしたものが生まれたような気がする。

C 廊下を走る生徒がなくなった。すべて転ぶと大変だということでもなさそう。

A プレハブ校舎から新校舎へ大きな変化であった。木造校舎時代のように隣りや上下の教室が意識されないの、授業に集中できて、授業の効率が高くなった。

## 改築をめぐる

### — 五校教頭座談会 —

B 時間のむだがなく、給食の準備も効率がよい。便所の数も多く、先を争うこともないし、手洗いが便利になつて保健面にも安心できる。

どことなく生徒が洗練されてきたような気がする。

C 生徒の昇降口を中央にし、広さも二教室分とつたことは、教育的に意義が大きい。同じ場所から一年生から三年生まで、全校生徒が出入りすることは今後効果があらわれと思う。一例だが遅刻する生徒がなくなったし、靴の整頓が非常によくなった。校舎建築からみても、昇降口が中央にあるため、校舎両端の教室が廊下まで取込んで設

計できたというメリットもある。

司 学習指導や管理面からみた新校舎は。

A 明るく静かな教室で、なによりも生徒の集中度が強くなり、授業が精一杯できるようなつたという声もある。

B 黒板に薄い方眼が描かれているから板書が整然としてきた。これからは安易な授業は許されないという声もある。

A 職員室が二階にあり、明るく通風もよいので管理上プラスの面が多い。特に運動場が一望できることはなによりよい。

C 校内の情報伝達が一段と便利になり将来の教育機器の導入にも十分耐えられるようになっていく。

教室にロッカーがあるので、生徒の動きが自由になったし、授業形態に応じた机の配置替えもしやすくなった。

司 これからの学園づくりについて。

C 現状は、生徒も先生も、環境の変化に押しやられている面がある。環境負けないで、この環境を生かしていきたい。

B 木造校舎では、磨き込んで、自分の教室、学校という愛着心と情操を養うことができた。新校舎でそれに変わるものをどこかに見いだして指導したいと考えている。

A 今までは、維持することに苦しんできた。これからは、新校舎に見合う環境づくり、緑の学園づくりにげみだいたい思っている。



— 工事概要 —

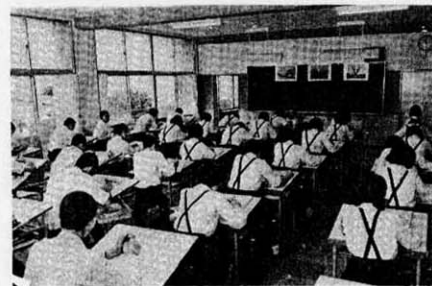
工事名 学校	主体工事		電 気 設 備 工 事	給排水衛生 設備 工事	計
	鉄筋コンクリート造4階建	渡廊下等			
美 川	3,550.05㎡	160.74㎡	930万円	11㎡	3,721.79㎡
	12,050万円			1,180万円	14,365万円
南	3,324.01㎡	27.54㎡	899万円	10.99㎡	3,362.54㎡
	11,500万円			1,099万円	13,779万円
竜 海	4,764.67㎡	191.34㎡	1,210万円	11㎡	4,967.01㎡
	16,130万円			1,500万円	18,840万円
六ツ美	2,380.94㎡	194.70㎡	678万円	10.99㎡	2,586.63㎡
	9,280万円			1,380万円	11,338万円
葵	3,207㎡	55㎡	930万円	10.9㎡	3,272.9㎡
	11,100万円			1,180万円	13,210万円



六ツ美中学校



美川中学校



竜海中学校



葵中学校



改築成った  
五中学校



五校教頭座談会

図 書 紹 介

▼「千枚綴」

兵藤三平著

千枚綴は一気に読み通す本ではない。読んで書を伏せ、著者の思念を自分の思いにかえしながら読む本である。

私の目は、「白文」にくい込む。肉声が開こえてくるような「功罪」。柔かな感覚で捉えた「便り」。

百編の作品を通して、著者の視野の広さ、教養の深さが感じられる。凡人なら見過ごしてしまう素材を人生哲理として捉え、語りかけてくる。それを自己の課題として受けとめたい。千枚綴刊行会編、研文社（六名小北川）

▼「自ら学ぶ能力」

— 学び方学習がめざすもの —

石川 勤著

やろうと思えば、考えていたことが、みんな書いてある。「やられた」と感じ、「さすが」とも思った。同時に、近くに学べる人がいるという嬉しさがあつた。一見、「これをやれば成功する」式のものともみられそうだが、実は指導者の血脈が通っていないならば、無価値。形だけのまねに終わっては、学習は、うすつべらでしかない。

現場を語り、方法を述べ、なおも、哲学が展開される。

黎明書房（矢東小・都築）



—講演要旨—

## 教育改革と日本の教育

青山学院大学教授

新 仲

学制百年の歩みは、欧米教育を模倣して、急速に教育の近代化をはかり、進歩してきたものといえる。急速な模倣は、いきおい、外面的、形式的なものとなり、内容を伴わないものとなった。現代は、もはや、模倣する段階ではなく、欧米先進諸国と同じように、新しい教育を求めて開拓し、創造しなければならぬ段階であろう。

近代教育が、欧米の外面的な模倣の上に成立したことによって、模倣することが進歩である、単純に考えられるようになった。流行が進歩で、それが非常によいことであると考えられ、伝統を無視する傾向も表わされた。つまり、流行が進歩、革新を意味するものと考え、そのことが、そのまま肯定され、事からの内容を離れて無反省に伝統を否定する傾向を生んだ。

さらに、教育は、外面的な、衣服や装飾品のようなものとなった。本来、教育は、人間にとって本質的なもので、流行などということとは、あり得ないはずのものである。日本の社会において、教育が、アクセサリーとなり、虚飾的な性格を持つものとなったことは、学歴偏重の社会であることに端的に表われている。実力よりも、学歴を重んずるということは、急速に近代化する過程の中で生まれたゆがんだ価値観である。

これからの日本の教育は、進歩が速くなくともよい。みずから、本当の教育を模索し、創造しつつ、一步一步進んでいくべきだと思ふ。

教育には、二つの機能がある。ひとつは、「文化の伝承」であり、もうひとつは、「人間能力の開発」である。前者は、教育

を「社会への適応」と考える立場であり、保守的な側面を持つ機能である。後者は、個人の潜在的能力を開発しようとするもので、進歩的な側面を持つ。百年の歴史の中で、この二つの教育機能は、互いに隆盛、衰退を繰り返してきた。ある時は、一方が表面に表われ、一方が底流となった。つまり、時代の潮流と、その底流という形で教育の現象が織りなされてきた。

新しい日本の教育の創造は、この両者が、高い次元で統合されることよってのみ可能である。外に目を向けるよりは、内を向け、「自分を見つめる教育」が要求される。

近年、教育改革が叫ばれている。中教審の答申以来、いっそのころが、教育改革は、文部省がするものという先入観によって賛成・反対をとらえているように思われる。

これまでの教育改革は、政府の手による、制度改革が中心であった。今後の教育改革、特に初等教育では、教育の内容、方法の改革が中心となるべきである。これは、政府や、文部省の改革にしたがって、学校の先生たちが行なうという性質のものではない。教育の内容や方法の実態は、それぞれの学校の教育の中にある。教師の活動の中にあり、教師と生徒の活動の中にある。

内容や方法を中心とした教育改革は、個々の教師が主体的に教育を受けとめ、それらが総合された形で国全体の教育改革が実現されるものである。いわば政府主導型から、教師主導型の教育改革への転換である。受け身の教師でなく、主体的な教師の創造的な活動である。

新しい時代の、新しい教育のよりどころは、まさに、そこにあると言える。

去る六月七・八・九の三日間 図画工作美術教育長崎大会に参加する機会を得た。「つくりだすよろこびを育てる造形教育」をテーマに、全国から四千人を集めたこの大会で、岡崎を大いに宣伝しよう、単身乗りこんだわけである。

### 長崎造研に参加して

竜海中 浅井 勉

分科会では、持参した「おかざきつ子展」の資料を参加者に配布し、一席ぶつたところ、大きな反響を呼んだ。全市をあげての行事をもち、図工美術教育を進めて

いるような地方との意見と資料の交換がしかなかったわけであるところが、個人研究、サークル活動の域を越えず、残念ながら満足するような話し合いはできなかった。

しかし、われわれの研究の方

国的な交流をはかる研修が進められるべきであると痛感した。

一方、長崎の美術教育の現状は、「基礎指導の定着から表現の発展へ」を目ざしていた。

はじめての長崎では、異国情緒と懐古の夢と詩を織りませた風景に魅せられた。しかし、ご多聞にもれず、近代建築が次々と割り込み、せっかくのすばらしいモチーフを破壊しつつあるのは、全く惜しまれることである。できれば再び絵心の合った仲間とじっくり腰をすえて、長崎を描いてみたいと念じている



# 委嘱校の研究推進快調

学校の主体性を生かし自由な研究に……

本年度の研究委嘱校は、名称こそそのまま「委嘱校」となったが研究はあくまでも自由に主体的にとする立場から、研究領域・主題・発表形式等はすべて学校で決めることとなった。

## ●関連・共同研究も

研究期間も原則は二年間とするが、研究内容、推進状況によっては学校の希望を入れた伸縮が考えられることとなる。

既に委嘱校間の連絡、打合わせが数度にわたり、自主的に行なわれるなど、新しい発想にふさわしい研究が快調に進められている。

【委嘱校】河合中・岩津中・常磐中・常磐小・福岡小・常南小  
常東小・恵田小・矢作西小・矢作東小・矢作幼 ●岩津小

## 【刊行あんない】

○「南中春秋」 南中学校 創刊号。特集「特別活動の研究」のほかに随想、実践記録、読書感想、俳句、短歌などと豊富な内容。南中教師全員による現職教育一年のまとめ。A5判。  
○「岡崎の昔ばなし覚え書き」 現職教育国語部編

さきに刊行した「おかざきのみかしばなし」の一篇ごとにそれぞれの再話者が、取材中に考えたこと、作品の意図やねらいを語って指導のための資料ともなる。A5、二八ページ。  
▲お願い 学校や個人の研究物刊行物をとりあげます。乞、紹介、連絡、寄贈（学校教育課）

## ●ことしの研究発表表

今年度研究発表校の発表時期予定は次のとおり、詳細後日。  
●梅園小（作文）九月 ●東海中（作文）十一月 ●山中小（体力づくり）十月 ●甲山中（体力づくり）十一月 ●大樹寺小（理科・観察実験）十月 ●六北小（音楽）二月 ●生平小（給食）紙上 ○南中（特別活動）十月

## 市美術館開館一周年記念

### 浮世絵名品展

八月十一日から九月二日まで。児童・生徒にも親しまれる北齋の「富嶽三十六景」や広重の「東海道五十三次」など浮世絵版画の名作（鎌倉二階堂浮世絵文庫所蔵）百余点と世界の名画レリーフ巧芸画百点を展示する。夏休み中でもあり、日本と世界の名画鑑賞の好機として開催が待たれている。

日まで。名奉行であり、晩年は西大平藩主でもあった越前守の実像を物語る遺品、資料約四百点の岡崎初公開。現職教育社会科部が調査から展示まで全面協力参加したもの。ほかに岩津古墳群の出土品も展示。

## ■東井義雄先生講演会

校長会、岡教組の共催で六月三十日勤労会館に五百人が参加して盛会。  
「東の斉藤、西の東井」と並称され、ご著書を通じて憧れ、親しんできた先生だが、岡崎の地へお迎えするのははじめて。きびしく、そして暖かく語りかけられる先生に、岡崎の子どもを育てる教師への情熱をかきたてられた感動の二時間半。

## ■岡崎初公開の大岡越前守展

岡崎城で八月一日から三十一

## 岡崎の教育・文化振興を願って

竜城ライオンズクラブ

### 教育文化賞制定

竜城ライオンズクラブ（鈴木勝雄会長）は、さきにチャーターナイトを記念して、視聴覚ライブライイヘカラービデオカメラ（80万円）一式を寄贈されたが、この程さらに、岡崎の教育・文化振興の一助にと教育文化賞設置の基金を寄せられた。

市教委では重ねてのご好意を生かすために具体策を検討してきたが、教育文化賞については次の要領で実施することになった。

## ◀竜城ライオンズクラブ教育文化賞▶

### 1.趣 旨

岡崎市の教育文化振興に寄与する個人、または団体のすぐれた業績や現に続けている研究に「教育文化賞」を贈り顕彰・助成を行なう。

### 2.選考方法

本人、団体よりの申請、または関係機関の推せんを受け「選考委員会」が選定する。

### 3.申請・推せん要領

●所定の用紙に所要事項および業績内容の概略を記入し、必要な資料があれば3点以内添付

●しめきり 9月30日

●送り先 岡崎市教育委員会学校教育課（教育文化賞担当）

### 4.主催

竜城ライオンズクラブ、岡崎市教育委員会



## 7月の行事

日	曜	行 事
1	日	市制記念日式典、緑化都市宣言発表会(市民会館) 子ども会育成初任者講習会(男川小・羽根小)
2	月	
3	火	新任教員研修会/視聴覚機器実技(婦人会館) 三河統計教育研究会(福岡小)
4	水	浮世絵展記念講演会(市役所大会議室)
5	木	東海北陸中学校校長会愛知大会 5、6日(市民会館ほか)
6	金	
7	土	教科書研究会(梅園小)
8	日	岡崎市勤労者総合体育大会 (公園グラウンドほか)15日も
9	月	市主事訪問(美合小)
10	火	校長会(巽園) 老人と子どもの交通事故をなくす運動 (7月20日) 市社会教育審議会(市役所)
11	水	六ツ美中完工式 岡崎市婦人大会(市民会館)
12	木	定例教育委員会 南中完工式 県主事訪問/保健厚生課(矢南小)
13	金	美川中完工式 教科書需用票作成事務説明会(梅園小) 愛知県PTA年次総会(県文化講堂)
14	土	竜海中完工式 短縮授業開始 県保健優良学校連絡協議会(連尺小)
15	日	子ども会育成初任者講習会(矢北小)
16	月	現職教育委各部世話係会(市役所)
17	火	教育講演会/県教育長(医師会館)
18	水	
19	木	
20	金	1学期終業式
21	土	夏季休業始まる 市長杯中学校総合体育大会 (24日) 小学校ソフトボール大会(25日まで)
22	日	西三河サッカー大会 全国放送陸上県大会(瑞穂グラウンド)
23	月	
24	火	県小学校教員書写実技講習(25日まで) 認定講習/第1週(27日まで)
25	水	市長杯中学校水泳大会(葵中) 県中堅教員研修会(27日まで)
26	木	
27	金	県教員採用試験(29日まで) 西三河中学校選手権大会(31日まで)
28	土	小学校ソフトボール大会準決・決勝 16ミリ映写機講習会(婦人会館)
29	日	
30	月	校内放送研究会(美合小) 市書写実技講習(31日まで)
31	火	認定講習・第2週(3日まで)

## 六階の窓



・七月一日、市制五十七周年記念日に、四十八名の先生が表彰を受けられた。  
バスケットボール協会の設立など、体育向上に貢献された都築孝太郎先生と、ホテルの養殖に成功し、絶滅寸前の源氏ボタ

ルの保護と保全につとめられた古田忠久先生が現職では初めて教育功績者として表彰された。また、四十六名の先生が二十五年勤続表彰の栄に輝いた。ひたむきに、「子どもから学び」「子どもに生きがいを教え」輝

かしい業績を残されたのである。  
・葵・六ツ美・南・美川・竜海の五中学校は、待望の完備した鉄筋校舎が完工し、喜びに湧いている。学制百周年記念事業として着工されたものである。  
ちょうど二十五年前は、食糧さえ十分でない頃であったにもかかわらず、市民の教育復興への情熱が結果され、新制中学のみことな校舎が建てられた時代であった。五中学校の完工を喜ぶとともに二十五年という歳月をかみしめている。

## 編集後記

●：創刊号は別として、二号、三号で、この月報のコンスタントな形が決まっていくものと編集部一同、知恵をしばりました。新鮮味までは出せなかつたと思つていきます。二号に皆さんのご意見を多くいただきたいと思つています。  
●：表紙に、「今月のことば」という欄を設け、まず浅井善

一校長にご寄稿いただきました。とかく惰性と安眠に陥りがちな私たちの一服の清涼剤としてかみしめたものです。  
●：創刊号四ページ「新任教師大いに語る」で、生平小学校鈴木真左子先生を落としてしまいました。訂正しておわびします。  
●：今月号のカットは、広幡小学校の玉越健彦先生にお願いいたしました。